

花言葉は「憧れ」や「尊敬」

「父の日」に贈るヒマワリが出荷最盛期を迎えています

J A愛知西管内で「ヒマワリ」を生産・出荷する起・やまちゃんファームでは、出荷の最盛期を迎えています。

生産する品種は、花弁が多く花形が美しい「ビンセントシリーズ」。花弁が黄色やオレンジ色で、中心部分が黒色や緑色の品種を栽培しています。

ヒマワリと聞くと、大輪を想像する方も多いかと思いますが、やまちゃんファームでは、草丈が約160cm、花の直径が約10cmのヒマワリを栽培しています。

3月上旬に種を蒔いたヒマワリの収穫が、5月上旬から始まりました。今後、約20回に分けて種を蒔き、11月下旬まで収穫が続けられます。

来たる6月20日の「父の日」だけでなく、10月の「ハロウィン」にも利用しやすい商品と、市場の方にも好評を得ています。



《取材対応日》

月曜日、水曜日、金曜日

※随時対応しますので、取材を希望される方はご相談ください。

場所：起・やまちゃんファーム圃場  
(住所：稲沢市神明津)

J A愛知西一色下方研修センター集合  
(住所：稲沢市一色下方町260番地1)

内容：ヒマワリの収穫作業  
ヒマワリの出荷調整作業

## 豆知識～なぜ父の日にヒマワリを贈るようになったのか～

イギリスでは古くから「魔除け・厄除けの色」として黄色が用いられており、アメリカ本土でも「愛する人の無事を祈る色」として広まっていました。戦時中には、兵士の男性に家族が黄色いリボンを捧げ、「無事に帰ってくるように」と願掛けをする慣習が世界各国で広まったとされています。

そこに着目した日本ファーザーズデイ委員会が、日頃からお仕事を頑張るお父さんを応援するためのコンセプトとして、「父の日に黄色いリボンをつけたプレゼントを贈ろう」というキャンペーンを実施。次第に、父の日の花に黄色いものを用意しようという風潮が生まれ、いつしか「父の日＝黄色」というイメージが定着しました。そこで、黄色い花と聞いて真っ先に連想される「ひまわり」が母の日のカーネーションに並ぶ定番の花として選ばれるようになりました。

## 起・やまちゃんファーム 山田倫之さんのプロフィール



### <起・やまちゃんファームの概要>

- ・生産者 山田 倫之（やまだのりゆき）
- ・圃場面積 約70a
- ・栽培品目 ヒマワリ
- ・出荷時期 5月上旬～11月下旬
- ・出荷量 年間約10万～15万本
- ・主な出荷先  
名港フラワーブリッジ、岐阜市場

一宮市起の生まれ。母の仕事の関係で幼い頃から花に触れる機会が多く、愛知県立稲沢高等学校の園芸科に進学します。その頃から、花農家になりたいと思っていましたが、一度は断念し、花に携る仕事に就きます。しかし、花のことをもっと勉強したいと、21歳の時、愛知県立農業大学校に入学し、花栽培について学んで農家をめざしましたが、またしても農家への道は厳しいものでした。しかし、日に日に農家になりたい思いが強くなり、一度諦めた夢を二度は諦められないと、今からおよそ7年前に新規就農しました。

就農時には一宮市内に1か所約15aだったほ場も、今では、一宮市と稲沢市の両市内にまたがる7か所約70aにまで規模を拡大。両市から認定された農業者（認定農業者）として、みなさんが笑顔になるようなヒマワリを栽培しています。

## Q&A

### 生産者に聞きました

Q ヒマワリを栽培するうえで気を付けていることは？

A ヒマワリは土壌中の養分を吸収する力が強いので、肥料を与え過ぎると、茎が太く、花の直径が大きくなりすぎるので、肥料の量を調節して丁度いいサイズのヒマワリを出荷できるようにしています。

Q 何か工夫していることはありますか

A 出荷する段ボールに屋号と友人にデザインしてもらったキャラクターを書いて、市場に集まるたくさんの花の中でも、買い手の目を惹くようにしています。

【リリースに関する問い合わせ】 ※取材にお越しいただける際にはご一報ください。

J A愛知西 総合企画部 企画広報課 小塚

TEL：0586-71-6811（代）

FAX：0586-71-5431

E-mail：sogokikaku@ja-aichinishi.or.jp